

No.15 株式会社サン浦島（御宿ジアース）（1/2）



持続可能であることを目指した多種多様な取り組みにより、
根強いファンと独特のブランド力を獲得

■ 基本情報

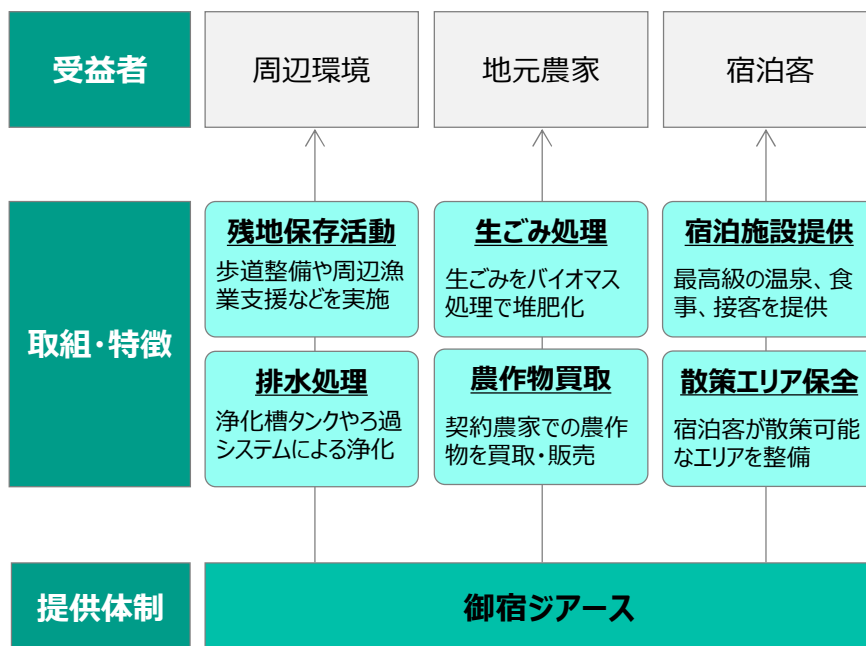
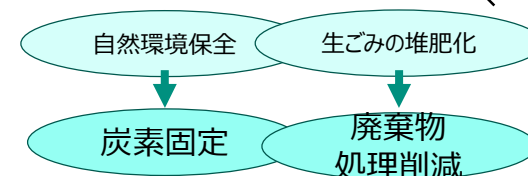
企業名	株式会社サン浦島
本社所在地	三重県鳥羽市
設立年	1951年 (2008年 ※御宿ジアース)
従業員数	25名 ※御宿ジアース

■ 背景・課題

地域課題 ・ 企業課題	自然環境保護 ✓ 黒鮑の漁獲量が減少傾向にあったため、原生林の清掃や海岸浮遊物のごみ拾いによる海の環境を保護する必要があった。
地域資源	お米農家との接点 ✓ 宿で発生した生ごみから生成した堆肥を知り合いの米農家に提供し、収穫物を宿で提供することで、ブランド価値が向上した。
地域への貢献	自然環境保全 ✓ 歩道整備や海岸の漁業支援、海岸のごみ回収などを通じて、自然環境保全に取り組んでいる。

■ 事業概要

- 株式会社サン浦島（以下、サン浦島）は、「御宿（おやど）ジ・アース」を含む6つの旅館を運営している。
- 「御宿ジアース」は伊勢志摩国立公園の太平洋を望むロケーションにあり、54,000坪の敷地内には大自然を散策するトレッキングコースを保有している。また、自家源泉の温泉や季節に応じたメニューを提供するレストランなど多くの観光客を魅了し、年に1度開催されるWorld Luxury Hotelsに毎年ノミネートされており、2021年もWinnerとなっている。
- また、歩道の整備、地域漁業の支援、周辺の景観保護のための独自での残地保存活動（所有地の5%のみ開発、95%は自然のまま残す）など、あるがままの自然を感じる環境に優しい宿を提供。さらに、「地球を感じる宿」をコンセプトに、オール電化でCO2排出を抑制しているほか、施設内污水は浄化槽タンクに集め、自然ろ過システム5段階棚田方式で浄化された綺麗な水を海に戻す取組を行っている。
- 生ごみに関しては、伊勢市内の企業と連携することでバイオマス処理で肥料化し、契約農家で活用。その農作物をまた購入している。その結果、御宿ジアースは開業以来、生ごみを一切出していないことが特徴的である。



出所) 御宿ジアースの
資料・インタビューより

No.15 株式会社サン浦島（御宿ジース）（2/2）



■事業立上・推進期における取り組み内容

立上期	推進期
- サン浦島代表の吉川氏は、伊勢志摩国立公園の太平洋をの望むロケーションに着目し、2008年より「御宿ジース」をオープンさせた。地元出身であることや周辺環境への敬意があったことから土地所有者からの理解を獲得し、複数の所有者から土地を買い取ることができた。 - また、伊勢志摩国立公園の地を選定した時点から環境活動への想いは持っており、自然災害後の重機での整備や海女さんの仕事場の整備、施設内汚水の排水処理など多くの取組を通して、周辺環境の保全に取り組んできた。 - 特に、「お客さんの要望に寄り添う」ことをモットーに、宿泊客の特徴から「食と景観」が重要であると分析をした上で、季節に応じたメニューを提供することや、周辺の自然環境を保全する活動を促進することに注力してきた。	- 県道のごみ回収や周辺の森林整備を自社で実施するほか、月一回ペースで開催している幹部会議に若手社員を含めることで、社員の環境意識を向上させることに成功している。 - また、社員のバッググラウンドとして、若女将が海外経験を有しており、また従業員に外国人が3人いるなど、多様な文化を尊重できる土壌が作られている。結果、幅広い客層に対して適切な接客サービスを提供している。 - さらに、既存の取組に縛られず、新たなアイデアを尊重する目的で、不定期で「ビジョン会議」を開催し、役職のつかない社員からアイデアを募集することで、常に新しい環境活動への取組機会やサービスの向上余地を捉え続けている。 - 生ごみ処理の取組では、バイオマス処理して生成した堆肥を契約農家に提供し、生産された伊賀米を購入、使用、販売することで地元で循環サイクルを作りだしている。

■取り組みにおける工夫

ポイント 顧客自らが実行・体験して強い共感を醸成

環境に関心の高い富裕層が「御宿ジース」のファンとなる傾向が高いが、宿の環境活動を紹介することで、宿泊客が自ら散策コース内のごみを回収するなど、自らの体験を積む。そうすると、より高いレベルの共感に繋がり、リピート顧客になってもらえる。

ポイント 地域のための活動を通じ社員のレベルが向上

IH調理機器の使用やノーゲスト時の電気・空調等の停止、ごみの分別の徹底、県道のごみ回収など様々な環境保全活動に取り組むことで、社員の「問題認識・解決」に向けた意識が向上しており、本業でのサービス品質向上に繋がっている。

ポイント サービスの拡充・質向上のための社内体制

顧客に対して常に新たな価値を提供するために、現幹部層によるトップダウンの運営ではなく、積極的に若手社員から意見・アイデアを収集し、サービスに反映させている。実際に、成果の一つとして、周辺の遊歩道をトレッキングコースに改良することに繋がった。

■目指す将来像

“サービスの質向上”と“環境への取組推進”

- 本業と環境活動の相乗効果を狙いつつ、両輪で取組を加速させることを目指す。

サービスの質

- 遊歩道のみならず、ロードバイクによる宿泊施設周辺の散策や宿泊施設訪問を可能にする
- そのために、ロードバイクの設置・貸出などを検討している

環境への取組

- 生ごみから生成した堆肥で、土づくりから行い自社で使用する野菜・果物・ハーブ等の栽培を今後検討していく
- また、その他の再エネ設備も検討していく

